

第八十回フォト句優秀作品（30年1月8日）







一線は越えてませんと両サイド (アキヤ)

寸評:

1) 未だ見えず人生行路探す旅

長尾 進一郎

濃霧の中を走る鉄道線路の素敵なシーンだ。人生行路と先の見えない旅とくると、句はやや重たくなるが、作品の意図は十分に伝わる。

2) 冬の池手ぶらで行って睨まれる

安藤 晃二

写真は冬の池の硬質な質感がよく出ている。句はやや散文的だが、鯉に睨まれたという感覚がよい。

3) 懐石もフレンチも飽きB級で

池田 隆

背広の外国人が簡易大衆食堂での食事。珍しい景に軽妙な句が雰囲
気をよく表している。

4) 灯がともし心あたたか細雪

清水 勝

山形県の銀山温泉。暮色せまる雪景色がよく撮れている。冬の峻烈さよ
りも和やかな細雪をとりあげたのも上出来だ。

5) 一線は越えてませんと両サイド

中村 晃也

どこかの代議士が叫んだので有名になった言葉だ。



今回は中村さんの出題、雪の信州地獄谷での猿の温泉の写真だ。

1) 若猿に負け隠し湯で傷癒す

松田 昌康

ボスの座を争い傷を負ったのか隠し湯で静かに療養している神妙な顔つきをよく捉えている。

2) ニンゲンに教えるものかこの穴場

長尾 進一郎

この場所は地獄谷の一番奥まったところ。まさに穴場だ。ゆっくり静養している老猿の気持ちがよく出ている。

3) 入浴中！カメラ持ち込み止めなさい！

清水 勝

温泉場の中にカメラを持ち込む不届きもの。お題写真の提供者が叱られている感じ。女湯でなくて良かった。

以 上